

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-405	独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 佐久間寛久 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
<p>The role of anhedonia in the relationship between adverse childhood experiences (ACEs), alcohol use disorder symptoms, and food addiction symptoms in a sample of emerging adults with histories of heavy drinking</p> <p>大量飲酒歴のある新成人サンプルにおける、小児逆境体験 (ACE)、アルコール使用障害症状、食物依存症症状の関連におけるアンヘドニア (失快楽) の役割</p>		
執筆者		
Takgbajouah M, Barnes N, MacKillop J, Murphy JG, Buscemi J.		
掲載誌		
Exp Clin Psychopharmacol. 2023 Dec 21. doi: 10.1037/pha0000703.		
キーワード		PMID
大量飲酒歴のある若年者調査、小児逆境体験、失快楽、食物依存		38127517
要 旨		
<p>目的： これまでの研究で、小児逆境体験 ACEs) はうつ病、問題のあるアルコール使用、食べ物依存 (FA) を含む過食パターンなど、健康上の負のアウトカムと関連することが分かっている。さらに、快感を感じることができない「失快楽」も、FA と同様に、アルコール乱用のリスクを高めることが分かっている。失快楽がリスク行動に関与するのは、失快楽のある人が快楽性の高い活動を求める可能性があるためである。本研究の目的は、多量飲酒歴のある多様な新成人サンプルにおいて、ACE とアルコール使用障害 (AUD) および失快楽を介しての FA 症状との直接および間接的関係を探索することである。</p> <p>方法： 横断的、定量的デザインが用いられた。サンプルは男性 42.6%、白人 45.5%、黒人 39.9% で、参加者の平均年齢は 22.64 歳 (SD=1.01) であった。モデルの特定には確認的因子分析を用い、仮説の検証には構造方程式モデリングを用いた。</p> <p>結果： 最初の測定モデルは許容範囲から良好な適合を示した。構造回帰モデルのブートストラップ分析による標準化結果は、FA および AUD 症状に対する ACE の有意な直接効果を示した。また、ACE は失快楽を通じて AUD 症状に有意な間接効果を示したが、この間接効果は FA については有意ではなかった。</p> <p>結論： 失快楽は、問題あるアルコール使用の予防と治療の重要な標的となりうる。今後の研究では、非大量飲酒サンプルにおける FA における失快楽の役割を検討すべきである。</p>		